東海民放クラブ活動だより

「秋の白川郷撮影ツアー」

阪田 晃（ＴＨＫ）

コロナ禍にもかかわらず東海民放クラブカメラ部会では3月、6月と当地方の感染者数が減少した時期を選んで撮影会を実施してきました。

もちろん感染確率がゼロというわけではないことから参加を見合わせる会員も多かったのですが、

撮影地は3密を避けた場所としたりして何とか部活動を続けてきました。

今回のツアーも感染が少し収まりかけた10月15日、秋たけなわの飛騨白川郷に日帰り撮影会を実施しました。往復とも高速路線バス利用で、会員以外の人との接触が気にかかりましたが、当日の乗客は我々8人と他に3組のみでソーシャルディスタンスは充分にとれ、しかも高速バスはコロナ対応仕様で5分ごとに換気がされる機能と席の前後にはアクリル板でシールドがされており、マスク着用ならほぼ接触はあり得ない状況でした。

天候は絶好の秋晴れ、紅葉にはやや早いものの、芒の穂が風に揺れ、コスモスが咲き誇る白川郷は「さあゆっくり撮ってくれ」とばかり我々を迎えてくれました。

午後4時の帰りのバスの出発まで約4時間をそれぞれの撮影ポイントを探りながら過ごすのですが、当日は本来なら二日間の「どぶろく祭り」の最終日にあたり郷中は大賑わいで神社の境内では天下御免の「どぶろく」がふるまわれ、昼間から酔っ払いが大騒ぎするのですが、今年は神事のみ。物足りなさは残るものの、境内での神事をカメラに収めることが出来ました。

昼食は「どぶろく」代わりに市販の「にごり酒」で乾杯し、新蕎麦に大満足。

午後は修学旅行の中学生と一般の観光客がわずかにみられるだけの郷内を隅から隅までゆっくりとカメラを向けました。

今年度の集大成は12月15日からの作品展。今回の撮影の中から作品展に出品する作品が多数出ることを期待して復路の高速バスに乗り込みました。

「ＳＰレコードのデジタル復刻化」

成田 徹男（ＣＢＣ）

「音風景の会」では、椙山女学園大学・飯塚恵理人教授（博士）の古典芸能研究に協力しています。

ラジオ放送開局当時の中部地方に残る民謡、民話の取材6ミリテープをデジタル化(D化)したり、現在はＳＰレコードのＣＤ化です。

ひび割れや一部欠けたようなレコードのD化作業を進めています。

この作業は、今のうちに実施しておかないと消滅してしまう時流となっています。

作業は、大きなスクラッチノイズを押さえ込むため、3分ほどの一曲を仕上げるのに、一時間以上かかってしまうこともあり、忍耐と根気のいる仕事です。

十数枚のレコードを1枚のＣＤに納め、ディスクラベル・ケースラベルを制作、楽しい芸術作品が出来上がります。

皆さんからのご要望があれば承ります。

Ｄ化作業プレーヤー

ＳＰレコードラベル